



日本糖尿病・妊娠学会

一般社団法人

日本糖尿病・妊娠学会 ニュースレター

The Japanese Society of Diabetes and Pregnancy News Letter

2020年5月発行 Vol.22 No.1

第42号

2020年を迎えて



一般社団法人 日本糖尿病・妊娠学会 理事長

平松 祐司

岡山大学名誉教授
岡山市立市民病院顧問

新しい年 2020 年を迎えて早々、新型コロナウイルス感染症が pandemic になり、3～4 月は多くの学会・研究会は延期や中止になり、終焉するのは 7～8 月、場合によりもっと遅くなるかも知われています。このため、東京オリンピック開催も延期され、感染症の怖さを再認識しております。

2020 年は、日本糖尿病・妊娠学会にとって非常に重要な年であります。一般社団法人化され 4 年が経ち、2 年前には中間選挙といってもよい理事の改選が行われ、今年は評議員、理事の改選の年に当たっております。法人化され 4 年が経ち、一通りの行事をすべて経験したことになります。この間、規約の不備な点などが改訂・整備され学会としての体裁が整備されたように思います。会員数も増加し 800 名を超え、共同研究の開始、機関誌の充実などに取りくんできました。この 4 年間は法人としての基盤整備の期間であり、次の 4 年は飛躍の期間になるものと思っています。

もう一つの大きな行事は、11 月 13 日（金）～15 日（日）、京都駅前メルパルク京都で開催する International Association of Diabetes and Pregnancy Study Groups in 2020 (IADPSG2020) と第 36 回日本糖尿病・妊娠学会 (JSDP36) (杉山 隆会長) が合同しての学会開催です。IADPSG2020 の演題募集は 3 月 2 日から、糖尿病・妊娠学会は 4 月 3 日から開始しています。通常の国際学会より安い参加費で設定していますので多くの方に参加いた

だきたいと思います。

IADPSG2020 では、1) Pre-gestational diabetes mellitus, 2) Epidemiology and public health issues including transgenerational consequences and economic burden, 3) Gestational diabetes mellitus, 4) Basic science: Genomics, epigenetics, metabolomics, proteomics, microbiomics, 5) Determinants and assessment of fetal growth and development, 6) Others のテーマで討論します。

JSDP36 は、“母児への継続的支援 - 治療から予防へ -” というテーマで、本ニューズペーパーにも掲載されているような魅力あるプログラムが組まれております。

新型コロナウイルス問題が決着し、11 月の学会で皆さんと一緒に熱い討論をできることを楽しみにしております。

IADPSG
International Association
of Diabetes and Pregnancy Study Groups
2020
Congress President:
Yuji Hiramatsu
(Chairman of the Executive Board of The Japanese Society of Diabetes and Pregnancy)
November 13th (Fri.) - 15th (Sun.), 2020

Kyoto, JAPAN
会場: 京都メルパルク

同時開催
第36回 日本糖尿病・妊娠学会学術集会
学会長: 杉山 隆
2020年11月14日(土) - 15日(日)

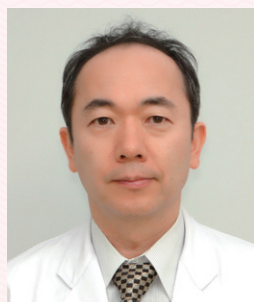
● IADPSG 2020 <http://iadpsg2020.umin.jp/> ● 日本糖尿病・妊娠学会 <http://www.dm-net.co.jp/jidp>
● IADPSG 2020/第36回日本糖尿病・妊娠学会学術集会 運営事務局 (株)MAコンベンションホールディング内
〒152-0863 東京都目黒区目黒3-1-1 電話: 03-5275-1151 FAX: 03-5275-1192 E-mail: iadpsg2020.jidp@ma-hd.jp

● 発行人 理事長 平松祐司

● 発行 一般社団法人 日本糖尿病・妊娠学会 www.dm-net.co.jp/jidp/ 〒105-0003 東京都港区西新橋 2-8-11 第7東洋海ビル (株)創新社内
TEL.03(5521)2881 FAX.03(5521)2883

編集制作: (有)知人社 ロゴマークデザイン: 杉山光章

第36回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会のご案内・見どころ



杉山 隆

愛媛大学大学院
医学系研究科産科婦人科学

第36回日本糖尿病・妊娠学会（JSDP）年次学術集会開催まであと半年と迫って参りました。本学術集会は、2020年11月13日（金）から15日（日）まで3日間、京都市のメルパルク京都において IADPSG 2020 と合同開催させていただきます。東京オリンピック開催は延期となり、同年開催とはなりません、IADPSG との合同開催であることに加え、紅葉の美しい古都京都で開催できすことに心より光栄に存じます。

今回、JSDP は IADPSG との合同開催であるため、一部のセッションが IADPSG と共通となります。従いまして、共通セッションは看護職や栄養士、保健師等も興味を持てる内容とします。共通セッションでは2つのスクリーンを用意し、片方に日本語で示します。共通セッションの具体的内容ですが、世界の偉大な観察研究である HAPO スタディの母児のフォローアップに関する最終報告やサブ解析等がアップされましたので、そのセッションを組みました。HAPO スタディのメッセージを一言でまとめますと、IADPSG による現在の妊娠糖尿病の診断基準は、妊娠合併症と関連するのみならず、HAPO スタディの母児のフォローアップスタディの結果、10年後の母児の肥満や耐糖能低下と関連することを明らかにされ、母児の継続的支援の必要性が示されたことです。今後は、妊娠糖尿病に対し母児の継続的支援の方策を詰める必要があります。また晩産化に伴い、BMI の上昇が生じますので、糖尿病合併妊娠において

も糖質のみならず脂質の視点からも妊娠合併症に悪影響を及ぼすことが問題です。このような視点より、他の共通セッションは、妊娠糖尿病と肥満、妊娠糖尿病のフォローアップ、2型糖尿病への進展予防に関するものであり、妊娠糖尿病の継続的支援に関する内容となっています。

今回の学術集会のテーマは、妊娠糖尿病の世界の動向を鑑み、“母児への継続的支援～治療から予防へ～”としました。たとえば、妊娠前から妊娠中、産後の継続的支援は、母体および胎児・新生児の合併症および将来の母体の生活習慣病発症のみならず、児の将来の生活習慣病発症のリスクを下げるためにも継続的支援が重要です。このような視点より、5つの教育講演を企画しました。糖尿病合併妊娠や妊娠糖尿病のリスク因子を有する女性のプレコンセプションケア、糖尿病合併妊娠や妊娠糖尿病の妊娠合併症と管理、妊娠糖尿病の産後のケア、児の視点からみた妊娠糖尿病、糖尿病女性や妊娠糖尿病女性に寄り添う看護、といった内容でそれぞれの領域のトップリーダーに講演いただきます。

来たる11月の IADPSG と JSDP の合同開催に向け、一生懸命準備する所存ですので、皆様方のご指導やご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。また会員の皆様におかれましては、皆様お誘い合わせの上、ご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

現在、開催に際し検討しておりますので、近々、お知らせできるものと存じます。今しばらくお待ち下さい。

国内関連学会開催日程

第54回日本小児内分泌学会学術集会

テーマ：ともに学ぶ・ともから学ぶ・ともに学ぶ

2020年10月22日（木）～10月24日（土）

会 長：長谷川 奉延（慶應義塾大学医学部 小児科学教室教授）

会 場：パシフィコ横浜 ノース

公式ホームページ：http://jspe54.umin.jp/

第35回日本糖尿病合併症学会

テーマ：健康寿命を目指した糖尿病合併症の予防・治療の進歩

2020年10月30日（金）～31日（土）

会 長：古家 大祐（金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学教授）

会 場：ホテル日航金沢、ANA クラウンプラザホテル金沢、ポルテ金沢

公式ホームページ：https://site.convention.co.jp/35jsdc26jsod/

【合同開催】第26回日本糖尿病眼学会総会

第35回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会の報告



杉原 茂孝

東京女子医科大学
東医療センター 小児科教授

2019年11月22日(金)・23日(土)に浅草ビューホテル(東京都台東区)で第35回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会を開催させていただきました。「妊娠と糖尿病―母と子を、そして世代を超えて、糖尿病から守るために」をテーマとしました。

海外招聘講演は、米国コロラドのDana Dabelea先生に「Role of developmental overnutrition in pediatric obesity and type 2 diabetes」と題して胎児期の過栄養と小児期の肥満や2型糖尿病との関連について最新の臨床研究のお話をいただきました。特別講演は、大阪医科大学の今川彰久先生で「劇症1型糖尿病―妊娠との関連と最近の話題」でした。シンポジウムは2つで、DOHaD (Developmental Origins of Health and Disease) の最新情報と糖尿病合併妊娠の先進治療(インスリンポンプ、CGM、食事療法等)を行いました。ランチョンセミナーは、日本大学小児科の森岡一朗先生と東京女子医科大学名誉教授大森安恵先生でした。一般演題は57題の応募をいただきました。一般口演34題、ポスター23題としました。新たな試みとしてポスターは第1および第2会場で3分間の口演発表をしていただきましたが、お知らせが不十分で一部の発表者の方にはご迷惑をおかけしましたことをお詫びします。

その他、GDMのフォローアップについてのミニシンポジウム、教育講演5題、など、幅広く話題を取り上げました。特別な企画として、インスリンポンプ治療につ

いてSAPのハンズオンセミナーと助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)取得のための助産師集中講座も開催しました。様々な企画を提案してくださったプログラム企画委員の先生方には心からお礼申し上げます。

日本糖尿病・妊娠学会は、内科、産婦人科、小児科の医師を始め、助産師、看護師、保健師、栄養士など多分野の人々が集まり、糖尿病・妊娠の様々な問題について議論し、活動する学際的な学会です。

今回は、771人という多くの参加を得ることができました。医師300名、メディカルスタッフ435名、その他ご招待と学生など36名です。特に多くのメディカルスタッフのご参加をいただきました。ただ、未入会の方の参加も多くみられましたので、これを機会に是非入会をしていただきたいと思います。無事、盛会裏に終了することができ、学術集会の運営に当たった医局員一同喜んでます。ご参加くださった皆様にお礼申し上げます。今後の日本糖尿病・妊娠学会のさらなる発展を祈念しております。



会場風景



学会終了後

海外関連学会開催日程

The 59th Annual European Society for Paediatric Endocrinology Meeting

2020年9月10日(木)～12日(土)

会場:イギリス リバプール

THE UK'S LEADING CONFERENCE CENTRE

公式ホームページ:<https://www.eurospe.org/meetings/2020/espe2020/>

51st Annual Perinatal Research Society Meeting

2020年9月11日(金)～13日(日)

会場:アメリカ ポートランド

The Benson Hotel

公式ホームページ:<https://www.emedevents.com/c/medical-conferences-2020/51st-annual-perinatal-research-society-prs-meeting>

56th Annual Meeting of European Association for the Study of Diabetes

2020年9月21日(月)～25日(金)

会場:オーストリア ウィーン

Reed Messe Vienna

公式ホームページ:<https://www.easd.org/annualmeeting/easd-2020.html>

International Society for Pediatric and Adolescent Diabetes 46th Annual Conference

2020年10月14日(水)～17日(土)

会場:アラブ首長国連邦 アブダビ

Abu Dhabi National Exhibition Centre

公式ホームページ:<https://www.ispad.org/page/ISPAD2020SiteVisit>

大森賞を受賞して



安日 一郎

NHO・GDM フォローアップ
研究班代表

国立病院機構
長崎医療センター
産婦人科部長

栄えある大森賞受賞に心より感謝申し上げます。今回受賞に浴した研究は、国立病院機構 (NHO) ネットワーク共同研究である NHO・妊娠糖尿病 (GDM) フォローアップ研究の成果の一部です。このプロジェクトは、GDM 妊婦を妊娠中にリクリートし、分娩後5年間のフォローアップを行う前方視的多施設共同観察研究です。本プロジェクトの目的は、(1) 日本人 GDM 既往女性における産褥3年および5年の糖尿病発症率、(2) 産褥5年間の糖尿病発症に関する発症リスク因子および発症抑制因子、(3) GDM の前期診断の意義、および (4) 産褥フォローアップの脱落因子の解明とその効果的予防策の開発、の4つの主題を明らかにすることを目的としています。

今回の受賞研究は GDM 妊婦の分娩後初回の耐糖能検査をもとにしたもので、そのオリジナル演題は 2017 年の米国母体胎児学会 (SMFM) Pregnancy Meeting で oral presentation の栄誉にも浴しました。大森賞は個人受賞という規定ですが、本研究は私が研究代表者を務める NHO・GDM フォローアップ研究班の研究チームとしての受賞であり、受賞賞金は本研究班の研究費として活用させていただきます。

NHO では全国の NHO 加盟病院のネットワークを活用して様々な臨床分野での多施設共同研究を推進しています。NHO・GDM フォローアップ研究班には、現在 NHO11 周産期センターが参画し、年間分娩総数 6,000 件を背景として大規模な臨床研究が可能なネットワークを構築しています。われわれはこの研究班を 2014 年に立ち上げ、2019 年3月までに 1,500 例の GDM 妊婦の登録を完了しました。現時点では日本最大の GDM フォローアップ研究であり、日本人 GDM 既往女性の分娩後の糖尿病発症リスクとその予防戦略という観点から、質の高いエビデンスの提供を目指して研究を継続中です。今後、本研究の成果を次々に皆さんにご報告できればと、本受賞を契機にギア・アップいたしました。

大森賞を受賞して



上里 忠好

順天堂大学医学部
産婦人科講座

このたびは、第35回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集會におきまして、名誉ある大森賞を受賞することができ、大変光栄に存じます。大森安恵先生、平松祐司理事長、今回の学会長の杉原茂孝先生をはじめ、選考委員の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

また、実際の研究に際してご指導賜りました順天堂大学代謝内分泌内科の綿田教授をはじめとする内分泌内科諸先生方、日々ご支援いただいている産婦人科講座の諸先生方に深謝申し上げます。

妊娠期にはインスリン抵抗性が増大するため、 β 細胞が代償性に増殖し、インスリン分泌を増加させることで糖代謝の恒常性が維持されていることが知られていま

す。しかしながら、妊娠期における β 細胞増殖機構の全容は解明されていません。

本研究「妊娠期のマウス臍島において PBK は cyclin B1 の発現増強に関与する」では、妊娠・非妊娠マウスから臍島を単離し、マイクロアレイを用いて発現遺伝子を網羅的に解析した結果、妊娠マウス臍島でリン酸化酵素 PDZ - binding kinase (Pbk) 発現が増大することを見出しました。

そしてさらなる解析により、臍島において妊娠期ではエストロゲン依存性に Pbk の発現が増加し、Pbk が Ccnb1 を介して β 細胞増殖に関与する可能性を示しました。妊娠期の耐糖能異常の発症には、インスリン抵抗性を代償するだけのインスリン分泌に必要な β 細胞増殖が行われないことが、一因と考えられています。Pbk を介した β 細胞増殖のメカニズムが解明されれば、妊娠糖尿病の病態解明や新たな治療法開発の一助となることが期待されます。

このたびの大森賞受賞を励みとし、今後も研究・臨床ともに精進してまいりたいと存じます。今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

トピックス

持続グルコースモニタリング (CGM) 管理目標の国際統一指針

和栗 雅子 大阪府立病院機構大阪母子医療センター
母性内科主任部長

妊娠中は、空腹時 / 食前血糖値 < 95mg/dL、食後 1 時間値 < 140mg/dL、食後 2 時間値 < 120mg/dL、HbA1c < 6.0 ~ 6.5% を目標とした厳格な血糖管理が必要です¹⁾。連続グルコースモニタリング (CGM) は、血糖自己測定 (SMBG) では捉えられない時間帯のグルコース推移をみることができ、妊娠中の血糖管理にも役立つと期待されています。しかし、CGM で得られたデータをどのように解釈して治療に反映すべきか、その指針が明確ではありませんでした。2019 年 6 月に CGM 管理目標の国際統一指針が発表され、米国糖尿病学会 (ADA)、欧州糖尿病学会 (EASD) など承認済みで、国際的なコンセンサスを得た推奨指針といわれています (図)。妊娠時は非妊娠時と異なる基準を設け、1 型糖尿病妊婦の場合は

治療域 (63 ~ 140mg/dL) の範囲にある測定回数または時間は 70% を超え、高血糖域 (> 140 mg/dL) は 25% 未満、低血糖域 (< 63 mg/dL) は 5% 未満にすべきとされました。

当院で検証してみますと、1 型糖尿病妊婦では妊娠前や妊娠初期に TIR 約 40 ~ 50% でしたが、妊娠後期には 70% 前後になっていました。2 型糖尿病 / GDM では、TIR と周産期合併症との間に関連は認めず、TIR の平均が 90% 前後であること、症例数も少ないためと考えられました。国際統一指針でも 2 型糖尿病妊婦 / GDM ではエビデンスに乏しいとして具体的な推奨は見送られており、今後さらなる検討が必要ですが、有用な指針として期待しています。

引用文献

- 1) 日本糖尿病学会：糖尿病診療ガイドライン 2019. 南江堂，東京，p283-304, 2019.
- 2) Battelino T, et al. : Diabetes Care; 42: 1593-1603, 2019

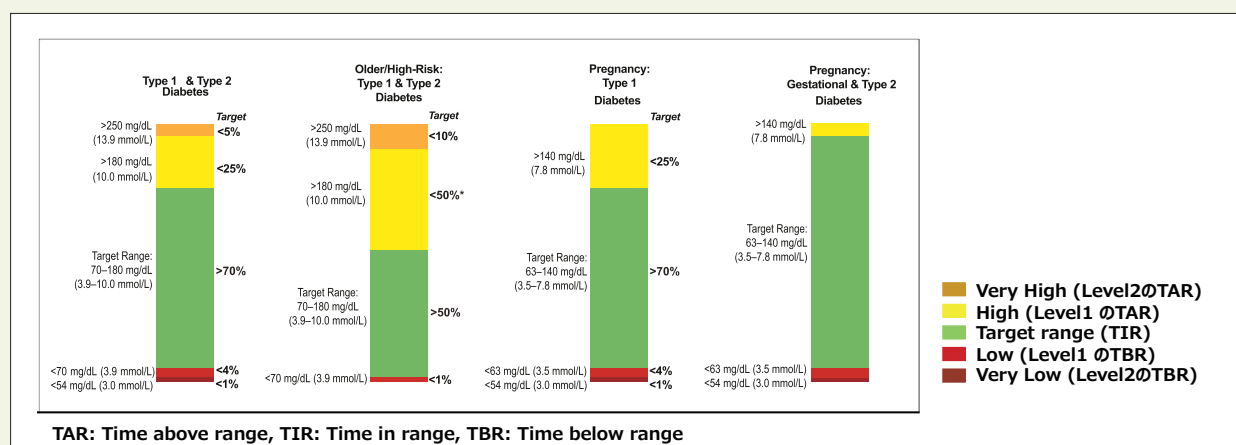


図. CGM 管理目標の国際統一指針²⁾

SMFM2020 レポート： 「母体 AB 型が GDM の発症に関連！」

安日 一郎 国立病院機構長崎医療センター 産婦人科部長

日本で「ダイヤモンド・プリンセスで新型肺炎発症」のニュースが始まったところ、米国母体胎児学会 (SMFM) Pregnancy Meeting 2020 が 2 月 3 ~ 8 日、テキサス州 Grapevine で開催されました。米国最大の産科臨床学会である本学会は、採択率 50% を切る最難関の学会の一つです。日本からは我々の施設を含めて 3 施設 7 演題が報告されました。糖尿病はもちろんメインテーマの一つであり、約 1,200 の採択演題の中で、糖尿病・妊娠糖尿病関連の演題は 8% を占めています。「分娩時の厳密な血糖コントロールは新生児の低血糖と関連しない!」、「新生児低血糖は basal insulin の種類に関連、Levemir が NPH より better!」、「母体 AB 型が GDM の発症に関連!」(ほんとかよ!?)、などなど刺激的な演題が並んでいました。その年の流行りがありますが、妊娠初期診断 GDM の意義や HbA1c 関連の演題が多い印象でした。詳細は AJOG の抄録号をご参照

ください。

いつものことながら印象的だったのは、レジデントはもちろん医学生を含めた若い医師やその卵たちが生き生きと発表している姿です。その初々しい緊張感と発表を無事終えた時の晴れ晴れとした表情は清々しく、日本の学会ではあまり見ることのない光景です。アメリカのサイエンスマインドの力強さを感じました。日本の若者も頑張っしてほしい。

ところで、今年は大統領選の年。4 年前のアトランタでは、ヒラリーの優位は微動だにせず、トランプなど泡沫候補という取り扱いであったのを覚えています。5-6 人の Uber ドライバーを捕まえてのショート・インタビューでは、テキサスなのに (?) 意外にもみな民主党支持、「アメリカ人の分断を unite しなければ」と口を揃えていました。2 年前のラスベガスではトランプの経済政策を支持するドライバーが少なからずいました。帰国途中ニューヨークに立ち寄りました。無事帰国できてラッキーでしたが、いまテレビで見る COVID 真只中の NY とのギャップに、文明の転換期を感じています。